

地域と共に、未来を創る大学へ

■ これまでの取組状況

山口大学地域未来創生センターを中心に、県内企業や卒業生の情報を一括管理するステークホルダー管理システムを構築し、学長をトップとした地域企業等への積極的な働きかけを行ってきたことで本センターへの相談事例等が増加しています。キャンパスがある山口市及び宇部市との地域連携プラットフォームでは、地域課題の抽出と解決に向けての継続的な協議を行っています。山口県内の産学公金で構成する大学リーグやまぐちが示した「山口県の産業界が求める人材像」に基づき、山口県立大学及び山口学芸大学と連携して、令和5年3月に大学等連携推進法人の認定を受け、3大学によるSPARC教育プログラムを構築しました。それに基づき、山口大学では令和7年4月にひと・まち未来共創学環を設置して、文系DX人材の育成を開始しました。山口を研究フィールドとした「山口学」は、3年間支援するカテゴリに加え、単年度支援プログラムを開始し、その成果を毎年度、「山口学紀要」として発行し、山口学の普及を行っています。これらの取組により、地域が求める新たな人材の育成及び地域課題解決に向けた知の創出を行うとともに、地域のシンクタンクとしての機能を強化し、地域のステークホルダーの更なる信頼獲得に向けて、順調に基盤を固めています。

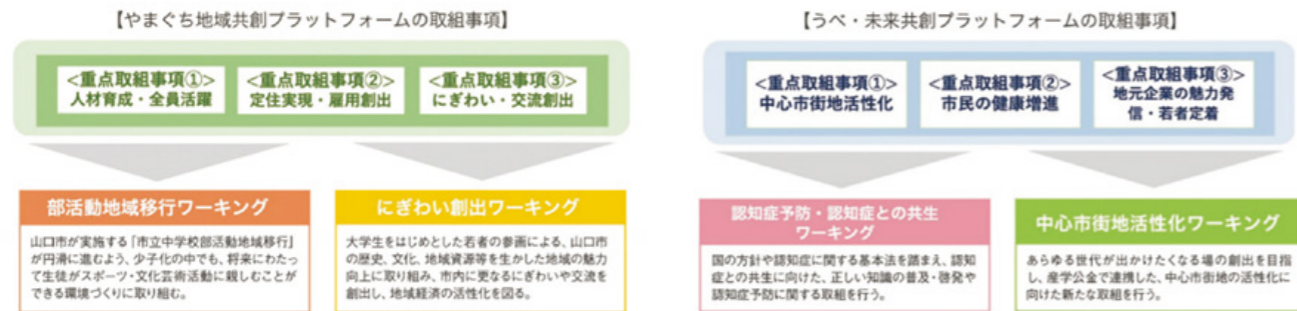


地域ビジョン
担当副学長
重松 宏武

01 地域から期待される知のシンクタンク

<地域未来創生センターの組織改革>

地域社会への貢献を通じて地域に開かれた大学を目指すため、地域未来創生センターを平成27年度に設置し、第4期中期目標期間では、地域未来創生センターの組織改革及び機能強化に取り組みました。令和4年度には、本学のキャンパスが所在する山口市域及び宇部市域の地域連携プラットフォームをそれぞれ創出し、両市の地域課題に産学公金が連携し取り組む仕組みを構築しており、その事務局として地域未来創生センターが活動する中で地域のさまざまなステークホルダーに認知されるようになりました。



<知のシンクタンクとしての体制強化>

地域未来創生センターのWebサイト、チラシのリニューアルにより広報機能やコーディネート体制を充実させることで、企業や自治体等のニーズと学内シーズとのマッチングのためのワンストップ窓口としての機能の強化に努めています。



02 地域学の研究拠点としての山口学の発展

平成27年度に設置した山口学研究センターでは、地域社会・行政・大学が協働して、山口県の謎を解き明かす「山口学」研究プロジェクトに取り組み、地域の持つ魅力を再発見することや、地域が抱える課題の解決に貢献するなど、山口県における自然、文化、歴史、産業、観光、流通、教育等に関する研究を推進するとともに、その成果を活用し、地域社会の活性化に寄与してきました。

<山口学の裾野拡大>

この山口大学独自の地域学である「山口学」については、学内の多様な「知」を結びつけるため、令和4年度から従来の3年間支援するカテゴリに加えて、単年度のみ支援であるが、より柔軟な研究グループ設定が容易な支援カテゴリ「B」を追加することで、取組の裾野を拡大したところ、令和5年度には8件であった申請件数が令和6年度は11件、さらに令和7年度には17件と、過去最多の申請件数まで増加しています。

<山口学紀要の発刊>

令和7年に発行した「山口学紀要」第5巻では、令和7年9月にユネスコ世界ジオパーク承認勧告が決定したMine 秋吉台ジオパークに関する研究である「格差なく楽しめるジオパークを目指して—ユニバーサルツーリズムの取組に対する実践報告—（西尾 建、脇田 浩二、岡本 純也）」を掲載し、高齢者や障害者が山口県内で旅行や観光を楽しむやすくする試みを紹介する等、地域に根差した山口学研究の取組の普及にも努めています。



▲ 山口学研究プロジェクト報告会

<山口学の発展>

複数年実施のプロジェクトへの申請を促すことで、科研費等外部資金による研究や本学の研究推進体へ発展する可能性のあるプロジェクトを支援することとしています。

03 地域の安全・安心な生活を維持するための附属病院

山口大学医学部附属病院では、県内唯一の特定機能病院として、県内の持続的な地域医療体制の構築を目指し、「病院改革プラン2040」を策定して様々な取組を進めています。また、令和7年9月には約10年に及ぶ病院再整備事業が完了し、より一層地域医療の拠点として地域の安全・安心な医療の提供につなげていきます。

<安全・安心な地域づくりへの貢献>

健康長寿社会、防災・環境、新興感染症の拡大等に関する教育・研究やDXの普及、山口県唯一の特定機能病院、地域の中核医療機関として「最後の砦」の役割を担い、行政機関と医療機関・教育機関との連携を推進し、安定した地域医療体制を充実させるとともに、地域住民が安全で安心して暮らせる地域の実現に貢献します。



▲ 外観

<AI等のデジタル技術による医療の提供>

医学部のAI研究と共同開発した最先端のデジタル技術を電子カルテに実装し、副作用対策や喘息の管理等に活用することで良質で安全な医療の標準化を推進しています。

<自治体との連携による地域医療体制の構築>

自治体と社会連携講座を設置し、総合診療、救急医療、小児医療などの地域における医療体制の課題解決を目指します。



▲ 病院ロビー